

巻頭エッセイ

備えは計画的に



森 信哉

国土交通省港湾局技術企画課
技術監理室長

元号が「令和」と決まりました。新たな気持ちでがんばろうと思わせてくれる、凜とした良い元号が選ばれたのではないのでしょうか。

5月1日からは令和元年。そして令和2年は、東京オリンピック・パラリンピックです。これから各競技の代表選考が本格化していきます。中でもマラソンは、選考の度に物議を醸していることもあり、マラソン・グランド・チャンピオンシップ（以下MGC）という代表選考のための新たな大会を造って選考を行います。4月末には、代表権を争う選手が出そろい、今年の9月15日のレースで代表を争います。一発勝負のスリリングなレースを期待しています。

マラソン代表は、MGCで3枠のうちの2枠が決まりますが、残る1枠はMGC以降にチャンスが残されています。先に選ばれた2名は準備期間を十分にとって本番を迎えることができます。また、急激に力を伸ばした選手も最後の1枠で選ばれる可能性があり、良く考えられた選考基準になっています。ただし、最後の1枠も「MGCシリーズに出場（完走）、又はMGCの出場資格を有すること」を条件としていますから、5月以降に超強力な新人が彗星のように現れても、東京オリンピックに参加できません。長期にわたる準備が必要なマラソンでは、そんな選手は出てこないということなのでしょう。

オリンピック出場は夢のまた夢ですが、私もここ10年、毎年「指宿なのはなマラソン」に出走しています。タイムは書けませんが（歩いていると言われますので…）、一度リタイヤしただけで後は完走しています。マラソンに臨むにあたってはそれなりに時間をかけての準備が必要ですが、このところは事前の走り込みが不十分なまま当日を迎えることが多く、タイムもじり貧になっていました。今回はこれまでになく頑張って準備していましたが、ついつい予定外の事をやって大会の一ヶ月前に膝を痛めてし

まいました。結果は前半で膝に痛みが出て、足を引きずりながら這うようにゴールにたどり着くという悲惨なものでした。

計画的に物事を進める事の大切さを示す一例ですが、行政はさらに計画的に進めていく事が求められます。

国土交通省港湾局が保有する船についても、長期的視野に立って計画的に整備を進めていく必要があります。（と無理矢理船の話に持っていきます。）

浚渫兼油回収船が3隻（大型3船）、ごみ回収や油回収を行う環境整備船が13隻、その他に全国の国直轄の港湾整備事務所に多数の港湾業務艇が配備されています。

これらの船は、通常の業務に加え災害等の緊急時には緊急物資、食料、飲料の輸送などの業務にも従事しています。災害時には担務海域外に派遣されることも多くなっていますが、現行の船では派遣に時間がかかったり、海象条件により派遣が難しいようなケースもあります。

そこで船団全体で必要な能力を発揮できるように船団の構成を見直せないかと考えています。大型3船は今の機能で良いのか、3船体制で良いのか。環境整備船は双胴船ばかりですが同じ様なタイプばかりで良いのか。機能を相互補完出来るよう異なったタイプの船を持つことが必要ではないのか。一方、双胴船ですが機能、性能は微妙に異なっているので、相互に部品を融通したり緊急時に乗組員が交代できるようにスペックをそろえることも考えられます。

令和元年は国土交通省港湾局として持つべき船のあり方をしっかりと検討し、今後は更に計画的に船の運営、整備を進めていきたいと考えています。

作業船協会の皆様にも是非知恵をお貸し頂きますようお願いいたします。この際ですから、我々が思いもよらない画期的で先進的な船を提案して頂けないでしょうか。「令和」の時代にふさわしい船を。